

令和5年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校等における
運動部活動の地域連携・地域移行支援事業の実施について）
成果報告書

令和6年3月
（川崎市）

事業実績について

取組の名称	障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業の実施について）
目 的	本市では誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指して「かわさきパラムーブメント」を推進しており、共生社会の実現に向け、パラスポーツの推進に取り組んでいる。 障害のある方の継続的なスポーツの実施促進には、身近な場所でスポーツを実施できる機会の創出や、スポーツに関わる人の障害理解が必要である。そのため、学校や地域団体と協力し、障害のある方とスポーツをつなぐ人材育成の支援や、総合型スポーツクラブ等と連携した「支える体制」の強化により、パラスポーツの実施環境の整備を図ることを目的とする。
取組内容	1 オープンエアメーカーの養成及び活用 2 地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報 3 特別支援学校における部活動支援 4 実行委員会の開催
成果と課題	1 オープンエアメーカーの養成及び活用 （１）これまでの取組 本市ではこれまで、地域において障害のある方が気軽にスポーツや社会交流に参加できるように、活動の場や支援者を増やすため、オープンエアメーカー（障害理解サポーター）の養成講座を７年間にわたり開催しており、中学生や大学生、教員、スポーツセンター職員など約 1,300 名が受講してきた。 （２）今年度の取組 ア 目的 障害のある子ども達のスポーツ活動を支援できるスキルを持った人材の育成を行うとともに、講座で培った知識を発揮することのできる場として、特別支援学校の部活動支援等につなげていくことを目的として養成講座を開催した。 イ 対象 支援学校の教員を志す者など今後、福祉分野での活躍が期待される学生 田園調布学園大学の学生：８名 ウ 内容 座学や実地講座の３回に加え、市内の特別支援学校における部活動支援を複数回行う、計５回のプログラムで行った。 （ア）第１回 日時：令和５年１１月１０日（金） １８時から２０時まで 場所：田園調布学園大学 ２２１教室 講師：戸沼 智貴氏 内容：障害理解に関する知識等を学ぶ基本編として座学形式で開催した。



第1回養成講座

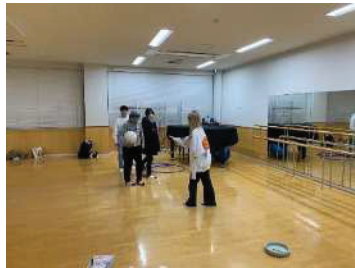
(イ) 第2回

日時：令和5年11月24日（金） 18時から20時まで

場所：田園調布学園大学 表現スタジオ

講師：戸沼 智貴氏

内容：第1回の座学を踏まえ身近なものを通じてスポーツを楽しむためのワークショップを演習編として開催した。



第2回養成講座

(ウ) 第3回

日時：令和5年11月25日（土） 10時から14時まで

場所：県立高津支援学校

内容：県立高津支援学校で開催された「秋の遊び場 in たかつ」において、パラスポーツの体験ブースの運営を行い、障害のある方と一緒にスポーツを楽しむための実地編として開催した。



第3回養成講座

(エ) 第4回及び第5回

第4回及び第5回について、特別支援学校における部活動支援において後述する。

- ・学ぶだけではなく交流することができ、とても楽しく参加することができました。
- ・いつもと違う考え方ができて楽しかった
- ・「秋の遊び場 in たかつ」楽しかった
- ・たくさん子どもたちの笑顔を見て良かったです。講座や授業でもあったように、保護者の方や、支援員ではなく、「本人の意思を聴く」ということを意識して活動に取り組めて、教員になってからもこのことを意識して関わっていきたいと思いました。

さらに、今年度は、段階的に実施したことにより、受講者自身で障害のある方と一緒に体験する機会が生まれ、理解度がより深まり、効果的な講座とすることができた。

市としての取組を SDG s と関連しながら周知広報をすることができた。さらに、わずかではあったが、地域で活動している団体に対して、新たに絵本や紙芝居を配布し、事業で活用していただくこととなった。





「ワクワクのつくりかた ～オープンエアメーカーになろう！～」紙芝居

3 特別支援学校における部活動支援

(1) 概要

部活動の視察やヒアリングを通じて、特別支援学校が抱える部活動に対する課題を整理し、オープンエアメーカー養成講座の受講者等からサポート人材を募り、部活動を支援する。

(2) 今年度の取組

ア 部活動の視察及びヒアリング

令和5年5月から6月にかけて、行政のみで特別支援学校（中央支援学校、田島支援学校、聾学校）の部活動視察及びヒアリングを行い、現状の把握を行ってきた。

さらに、委託契約締結後、コーディネーターによる視察及びヒアリングを行い、改めて特別支援学校が感じる部活動の課題等を整理した。

【部活動視察及びヒアリング日程】

学校名	視察日
市立聾学校	令和5年10月14日
市立田島支援学校	令和5年10月23日
市立中央支援学校	令和5年10月23日

【各校からの意見】

部活動についての課題等は3校それぞれ異なり、「生徒は部活動をもっとしたいと思っているが、教員が会議により対応できないこと」や「専門の指導者の活用について課題がある」といった意見がある一方で、「部活動は教育活動の一環であり日常生活動作に繋がればよいと考えて行っている」や「顧問教員が多くいることから外部指導はすぐ必要ではない」といったことが挙げられている。

この部活動視察及びヒアリング結果を踏まえ、特に競技力の向上という面で地域資源を活用することが可能と考える「市立聾学校」において部活動支援を行うこととなった。

イ 部活動支援

市立聾学校の陸上部及び卓球部において部活動支援を行った。

(ア) 陸上部

【開催日時】

令和6年2月26日（月）15時40分から17時まで

【場 所】

市立聾学校3階廊下

※グランドコンディション不良のため室内で実施

【参 加 者】

市立聾学校：6名（生徒）、1名（顧問）

サポート：田園調布学園大学学生 1名（※）

※オープンエアメーカー養成講座（第4回）の受講生として参加

【指導者】

船場 大地氏（GrowSports 陸上クラブ川崎）

金井 拓馬氏（東海大学3年生）

※「GrowSports 陸上クラブ川崎」は本市内に事業所があり、市立中学校の地域運動部活動推進事業支援も行っている。また、金井氏は市立高校出身のアスリートである。

【指導内容】

グラウンドが使えず、校舎内の廊下での活動となったが、通常行っている準備運動や練習に対して、「こんな事を意識して練習してみたらどうだろうか？」等、生徒と対話しながら、コミュニケーションを取り、指導を行った。

【成果】

指導者が一方的に伝えるだけでなく、生徒と一緒に考えて、効率のよい練習方法を伝えることができた。

短い時間ではあったが、指導後の生徒達、走法、リズムなど、見違えるほど良くなった。

（イ）卓球部

【開催日時】

令和6年2月26日（月）15時40分から17時まで

【場所】

3階音楽室

【参加者】

市立豊学校：3名（生徒）、1名（顧問）

サポート：田園調布学園大学学生 1名（※）

※オープンエアメーカー養成講座（第5回）の受講生として参加

【指導者】

馬渡 元樹氏（信号器材卓球部）

柴田 和輝氏（信号器材卓球部）

※「信号器材卓球部」は、市内を拠点に競技活動しており、国際・国内大会等で良好な成績を収めるとともに、意欲的に地域活動に取り組んでいる「かわさきスポーツアンバサダー」として認証されている。

【指導内容】

部活動参加者が3名と少数であったが、ラリーや細かい技術など、マンツーマン指導を行った。また、実技披露として社会人リーグで活躍している選手達がラリーを披露した。

【成果】

社会人リーグで活躍している選手との本気のラリーでは、今まで見たこともない変化するボールに、驚く場面もあり、生徒自身の課題克服など、分からないところは、積極的に技術指導を求めている。

また、速く力強いラリーを見ることで一流選手の技を肌で実感していた。

ウ 成果

部活動支援を実施するにあたり、懸念されていたコミュニケーションについて、顧問の先生や生徒自身が手話通訳を行うことで円滑に行うことができた。

専門家が指導することで、普段の練習に比べ意識が高くなることに加え、的確なアドバイスがあったことで、短時間ではあったが意識改革や

技術力向上に寄与できた。また、地域指導者との新たな関係性を構築することができた。

学校長から「専門の方にいろいろアドバイスをもらえたこと、迫力のある打ち合いなどを間近で見れたことなど、普段、経験できないことを経験させていただき、子どもたちも、いい刺激を受けたようです。口々に「楽しかった」と目をキラキラ輝かせながら終わった後も言っていました。充実した時間を過ごせたこと、いい経験が出来ました。」と感想をいただいた。

さらに、生徒から次のような感想があった。

- ・技術的な指導をしてくれてとても良かったです。今日教えてもらったことを今後も練習します。
- ・今日の経験を活かして速く走りたい。歩くことと走ることの動作の違いがわかり、楽しかった。
- ・バックとフォア、つつつきなど、いつもラリーでも続かなかったけど、先生にきてもらい、続ける事が出来ました。ありがとうございました。
- ・今日は来てくれてありがとうございました。今日の練習を忘れずにこれからも練習していきます。

【陸上部】



練習前のアップ



筋力トレーニング

【卓球部】



ラリー



アスリートによる実技披露

4 実行委員会の開催

(1) 概要

有識者、スポーツ協会、特別支援学校、スポーツ推進委員、障害者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会、社会福祉協議会、総合型地域スポーツクラブ等の代表者及び行政関係部署により構成する実行委員会を2回（7月、2月）開催した。

その中で、オープンエアメーカー養成講座や特別支援学校の部活動支援の実施方法などについて協議・検討を行い、今年度の方針について決定した。

ア 第1回実行委員会

開催日：令和5年7月7日（金）

成 果：今年度の取組案について報告を行い、各委員からの意見を参考にしながら、オープンエアメーカーの養成及び活用、地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報、特別支援学校における部活動支援の3本立てで今年度は進めることを確認した。

イ 第2回実行委員会

開催日：令和6年2月16日（金）

成 果：今年度の取組成果を報告するとともに、次年度以降の本プロジェクトのあり方について意見をいただき、今後の方向性について確認した。

4 総括

本年度は、これまでの7年間の取組内容を踏まえ、「オープンエアメーカーの養成及び活用」、「地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報」、「特別支援学校における部活動支援」の3本立てで実施してきた。

オープンエアメーカーの養成及び活用として、支援学校の教員を志す者など今後、福祉分野での活躍が期待される学生を対象として養成講座を開催した。今年度は、特別支援学校の部活動支援のサポートすることを念頭に、座学、演習、実地と段階的に実施することでより理解浸透を図ることができた。

地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報として、これまでの本プロジェクトの成果である絵本と紙芝居をホームページのほかに新たにSDGsの達成に向けて取り組む企業・団体の皆様に対して、それぞれの取組に活用できるようにメーリングリストを活用して周知広報を行った。

特別支援学校における部活動支援については、部活動視察及びヒアリングを通じて、各学校においての部活動への課題等が異なることがわかった。その中で、特に競技性の向上ということに課題を感じている市立豊学校において地域のアスリートを活用しながら実施した。

豊学校における部活動支援においては、学校長から「普段の部活以上に子どもたちの目が輝いたのが印象的であった」と感想があったように、外部のアスリートが指導することで意識ややる気の向上につながり、有意義な時間を提供することができた。

また、当初懸念されていたコミュニケーションの部分についても、顧問の先生や生徒自身の通訳もあり、支障なく円滑に行うことができた。

今後についてもこれまでの成果を活かしながら、スポーツを通じて、かわさきパラムーブメントを推進し、多様性を尊重した、共生社会の実現に向けて、取り組んでいきたい。